

ECO-FRIENDRY INTERVIEW No.3

2019年より施設やビルで「ワタミのでんき」をご利用いただいている
「社会福祉法人あかねの会」の業務執行理事である吉田直己さんにお話を伺いました



凛とした笑顔をみせる
業務執行理事・余暇支援部長 吉田 直己さん

**“障がい者を納税者に”
一人ひとり、誰もが自分らしい人生
を生きるために
障がい者という
言葉を使わない世界にしたい**

一日頃どんな思いでお仕事されていますか？

障がい者を取り巻く環境は、理解が進んでいるとは言えない状況がみられるなど厳しい状況が近年までありました。しかし、施設から地域へという考え方が2000年頃から普及し始め、私たちのような団体ができはじめました。「あかねの会」は私が12歳の時に、特別支援学級の担任をしていた私の母とその周囲の保護者たちで設立しました。そして、その頃から母に連れられて事業のお手伝いや支援を一緒にしてきました。

私自身、耳が聞こえないという障がいを持っています。電話はできませんし、大人数での会議もできませんが、システムエンジニアをしていた位パソコン業務は得意です。そんな風に、障がいがあっても人の役に立つ仕事をできる方はたくさんいます。私自身の経験からも、一人ひとりが自立して生活することを練習すれば、普通に働いて納税していくこともできるのです。例えば、自分の靴ひもは自分で結ぶ、自分が使用した食器は自分で洗う、服を自分で洗濯してたたむ。日常の生活を普通にできるようになるためには支援とそれを行うための安心して過ごせる居場所が必要です。社会の一員として、一生安心して過ごせる場所を私たちは用意したいと考えています。現在は、練馬区・文京区・目黒区などの24カ所で事業を展開しています。

私たちのビルやレストランの名前にもしている『われもこう』に込められた思いがあります。この花の生き様は、「目立たない花、花らしくない花、でもわたしだって何かの役に立ちたい 自分の持ち分を咲ききって枯れていきたい」。そんな『われもこう』のように、誰かの為に自分らしく何かの役に立って生きがいを持って生きていけるように、職員も利用者さんも日々努力をしています。

ECO-FRIENDLY INTERVIEW No.3

―ワタミのでんきに変えたきっかけを教えてください

ワタミグループで就労させていただいている利用者さんがいたことが最初のご縁です。そのご縁からワタミエナジーさんを知り、そのつながりで営業の本多さんから色々とお話を頂いたことがきっかけでした。ワタミエナジーさんの「未来の子どもたちのために再生可能エネルギーを増やす」という思いにはとても共感しています。でも実は、本当に感謝しているのは事業における経費がとても削減できたことです。自主商品を作って売れて初めて利用者さんの工賃が出るので、しっかり商品売って利益を出さなければいけない。そのような事業をするのにはもちろんお金が必要です。電気、ガス、水道のインフラが安くなるのであれば、利益が増えるので本当に助かっています。



「コミュニティカフェなごみ」



「カフェなごみ」では、ししゅう製品、さをり織製品やマスクなど販売しています。

―これから取り組みたいことはありますか？

私たち「あかねの会」は、ゆりかごから墓場まで切れ目のないサービスを提供したいという思いのもと立ち上げられました。他の法人との違いは、カフェ(左写真)などによる[就労支援]や[相談支援][発達支援][生活支援][余暇支援]と総合的にたくさんの事業を広く行っていること、法定より人員配置を多くしていることです。

福祉サービスとはこういうものだから、こうするというわけではなく、利用者さんに必要だから事業を行う。経営面だけを考えれば、事業を一本化したり、人員配置も最低限の方が楽ですが、私たちの目的は達成されません。なぜ私たちがそこまでするのか、と言われます。

それは一番大事にしているのが理念である「ゆりかごから墓場まで切れ目のないサービスを」だからです。利用者の中には、親や親戚と絶縁してしまっている方もたくさんいるという悲しい現実があります。なので、私たちはお墓も作りました。しかし、まだ足りていない所があります。

障がい者の高齢化にともなって、高齢者向けの施設などはまだ不足しているので、今後は介護施設も作りたいと考えています。幼稚園についても考えていきたいと思っています。そうして、利用者一人ひとりにあった支援を「ゆりかごから墓場まで切れ目なく行う」ことで、誰もが自分らしく生きて行きたいと願っています。まだまだ、無知による差別や無意識のうちの偏見を感じることがあります。まずは、知的障害を知ってもらい、「障がいという特徴」があるだけと認識してほしいですね。

一人ひとり、誰もが自分らしい人生を生きるために、障がい者という言葉を使わない世界にしたいと思っています。